

2022年度第2回町田市立国際版画美術館運営協議会議事要旨

■日 時：2023年1月18日（水） 午後2時

■会 場：町田市立国際版画美術館 講堂

■内 容：

1. 報告事項

(1) 2022年度後半期の事業の振り返りと総括について

・展示事業

「長谷川潔 1891 - 1980展—日常にひそむ神秘—」 …… (資料1)

・普及事業 …… (資料2)

(2) 2022年度後半の美術資料の収集状況について …… (資料3)

(3) 2022年度第24回「ゆうゆう版画美術館まつり」実施報告 …… (資料4)

2. 審議事項

(1) 2023年度事業計画について

・展示事業

…… (資料5)

・普及事業

…… (資料6)

3. その他

(1) 仮処分申し立て事件について

(2) 芹ヶ谷公園“芸術の杜”パークミュージアム進捗状況について

■出席委員：磯見 輝夫 諸川 春樹 三上 豊
降旗 千賀子 吉田 和夫 三竹 和行
(敬称略)

■出席者：篠崎部長 大久保館長 星野副館長
和南城担当係長(学芸係) 渡邊係長(普及係)
安田係長(管理係) 内海担当係長(管理係)
鈴木(管理係・書記)

■会議録（要約）

○開会の宣言（国際版画美術館副館長）

○部長挨拶（文化スポーツ振興部）

○館長挨拶（国際版画美術館館長）

1. 報告事項

（1）2022年度後半期の事業の振り返りと総括について

○資料1、2について事務局から説明

○委員からのご意見、ご質問等

委員

長谷川潔展のディスプレイで英文表示ができなかったとあるが、英文表示が外部に委託しているのか。内部でやっているのか。

事務局

大型企画展の場合、解説や挨拶は外部委託、作品タイトルは担当者が行う。長い解説文を英文にするのはなかなか難しく、収蔵品展の場合は手が回らない。

委員

広報について、専門の委託業者がインターネット上に展覧会情報をアップしたとあるが、版画美術館のホームページとは別にそういうサイトがあり、どうアクセスするのか。

事務局

美術館やイベントが情報を申し込んでいるサイトで、そこに登録している各メディアが必要なものをチョイスする。画像も登録したものをダウンロードしてくれるので、紙でプレスリリースを送っていたときよりこちらの仕事量は減るし、心理的なハードルも下がるので、掲載するメディアが増える。

委員

委託業者に出す情報はチラシではなく別途作ったものか。

事務局

以前紙で作っていたようなプレスリリースを作る。それを送るとホームページのようなものを作ってくれる。画像も送るとそれがダウンロードできるようになる。今紹介サイトが増えていて、そのサイトの人たちが自分で見て載せてくれるので、今まで知らなかった紹介サイトで取り上げてもらうことができた。

委員

そうすると、ポスターの郵送料は減るか。

事務局

ポスターを見ていらっしゃる方は少なくない。あまり郵送料は変わらないと思う。

委員

ポスターは近県、関東圏に送っているのか。

事務局

日本全国に送っている。見直しは随時行っている。

委員

ハイブリットはこれから大きい。すそ野を広げるためにもICTをうまく活用することが大事だと思う。撮ってスキャンにかけると自動翻訳で英文にできるものもある。小さい解説文をスマホで大きくしたりQRコードで読み取って読むこともできる。同時解説をイヤホンでやる美術館も多くあるが、ホームページのQRコードでもできると思う。

事務局

春と秋の大型企画展はホームページの展覧会ページで、英文で紹介している。収蔵品展でもできるといいと思うので参考にさせていただく。

委員

長谷川潔展は非常に良かったと思う。こういう展覧会は専門家にも人気があるし、一般人も入りやすいので大事にしていきたい。

入館料について、千円を超える展覧会がたくさんあるが、900円で結構優しい。浮世絵の展覧会だともう少し高くなるのか、どう考えているか。

これからの美術館には広報専門の人が必要だと思う。今回は外部を使ったとのことだが、今後美術館が大きくなるということで考えれば、広報担当者を付けるのも良いと思う。

委員

版画と写真展がとても良かったと思う。版画美術館専門の版画とそれ以外のもののコラボが来場者の枠を広げる。これからも版画と何かのコラボをやると、版画に興味がなくとも美術館に来たい方が増えると思う。

アンケートの回収率が4.6%というのは多いのか、少ないのか。もうちょっと多くても良いと思う。入口でアンケートを配ったら1%2%回収率は上がると思う。

事務局

工夫していきたいと思う。

委員

QRコードを置いてグーグルフォームのようなアンケートを作る、そういうICTの工夫もできると思う

事務局

ICTも含めて考えていきたい。

委員

美術館の中で音楽を聴くのはすごく良いと思うが、普及活動としていかがか。

事務局

コンサートホールに行きにくい方、赤ちゃん連れやお年寄りが割と見える。出たいときにすぐ出られるといったニーズは拾っていると思う。聴きごたえがあり、無料というのも珍しい。看板事業だと思っている。

委員

ふらっと来てふらっと聴く、むしろその方が良いと思う。街角ピアノのようなものもまとめて企画すると良いかもしれない。美術館に来ればなにかあるというのが大事。

事務局

絵を見に来た人にはきちんと言わないと、たまにうるさいと言われる。いつもと違った観賞体験という切り口でも広報させていただく。

委員

アンケートで、写真が撮りやすくてよかったという感想がたくさんある反面写真は禁止にしてほしいというのもあり、考えないといけない。私はスマートフォンを持っていないので、できれば見て作品と対話して帰りたいが、大体の方がスマートフォンを持っている。写真を撮って次の作品へ行くという、そういう時代が来ている。

入館料はぐっと抑えていて良い。大事にしてほしい。

事務局

入館料の上限は千円以上だが、近隣の美術館の入館料も踏まえて設定している。今後もそれは続けていきたい。

(2) 2022年度後半の美術資料の収集状況について

○資料3について事務局から説明

○委員からのご意見、ご質問等

委員

和田誠の銅版画作品は何かのシリーズか。

事務局

映画のシリーズが寄贈された。畦地梅太郎「石鎚山」、相笠昌義「都会人のためのモニュマン67-I」、文月恵津子「Phenomenon」は新収蔵作品展に展示されている。

(3) 2022年度第24回「ゆうゆう版画美術館まつり」実施報告

○資料4について事務局から説明

○委員からのご意見、ご質問等

委員

スタンプラリーの主催も友の会と版画美術館か。

事務局

スタンプラリーの主催は文学館まつり。3つのスタンプが押されると版画美術館が提供したデータの絵が載った缶バッジがもらえる形で行った。

委員

文化祭でスタンプラリーをやると大変喜ばれる。景品が多ければ多いほど皆さんスタンプラリーをする。企業と連携して景品を無料でもらうことはできないのか。問題がなければどんどん企業とコラボしてやっていけば面白くなるのではないか。

事務局

ルールのどうか確認し、問題なければ考えていきたいと思う。

委員

長谷川潔展のときのレースとプレス機で作る版画は実際にやるものか。

事務局

版画家の常田泰由氏にご指導いただき、レースペーパーやレースの布をコラグラフのような形で摺った。プロセスは簡単だが完成度の高いものができた。

委員

参加者は多かったか。

事務局

小さいお子さんから大人まで、多かった。

委員

制作は数時間くらいかかるのか。

事務局

30分くらい。できるだけたくさんの方に来ていただきたいため。

委員

普及事業の報告に入っていないのはなぜか。

事務局

8月に実施したため、前回の運営協議会で報告した。

委員

新型コロナウイルスが蔓延した状態が続く、他の美術館だとオンラインを使ったりしているが、普及事業について、版画美術館ではそういうことはあったのか。

事務局

今のところ実施していない。

委員

今後はどうか。色々活用するのも手かという意見も多かった。

事務局

コンテンツ配信みたいなことはやっていきたいと思うが、実際に作りたいという要望が多い。今のところは来て作る活動を続けている。

2. 審議事項

(1) 2023年度事業計画について

○資料5、6について事務局から説明。原案のとおり承認された

○委員からのご意見、ご質問等

委員

一般開放は版画経験者でないと参加できないのか。

事務局

お見込みのとおり。そうでない方は講座やイベントに参加していただく。

委員

一日教室の年間見込みが100名弱だが、初心者にこういう経験をさせるのは相当難しいのか。

事務局

定員10名の講座だとしたら先生1名とアシスタント3名。そのくらいいないと難しい。

委員

もう少し気楽にできたら良い。

事務局

間を端折ってダイジェストに銅版画の気分が楽しめるイベントも随時開催している。あまり敷居が高いと普及にならないが、かみ砕きすぎるとそういうものと思われる。本格的なものとはつつきやすいものを考えながら企画を進めている。

委員

これからも工夫して願います。

委員

カタログを作るのはどの企画展か。

事務局

「自然という書物」と「楊洲周延展」と「小野忠重と版画運動展」。簡単な小冊子は「出来事との距離」「版画家たちの世界旅行」でも作る予定。

委員

簡単な小冊子は重大なメディアだと思っている。新収蔵作品展もちよつとしたものを作ると、それを重ねれば収蔵品目録になる。小さなメディアも大切にしていきたい。

事務局

出品目録は作成している。今回の新収蔵作品展では、キャプションについている作品の説明も一緒に載せたリーフレットを配布している。その年に収蔵した作品については、紀要に記録している。

委員

ミュージアムショップは美術館が運営しているのか。ラインナップや商品は美術館職員が考えているのか。

事務局

商品を作る予算がないときは取り寄せるが、担当職員が考えている。

委員

最近美術館は変わってきていて、いろんな方が来る。例えばガチャを置いたらどうか。収蔵品のミニチュアのようなもの。ここにしかないレア物を作る。

事務局

(仮称) 国際工芸美術館ができれば、民間の活力を入れて体制も変わる。ショップは良い方向にできるもののひとつだと思う。

委員

常設展示のタイトルだが、「ミニ企画」は変えたほうが良い。

事務局

私が関係している別の美術館では「ミニ企画展」はやめて「特集展示」にした。名前だけで来館者がどれだけ増えたかわからないが、「ミニ」は少し粗末かとおもう。

事務局

企画的に回しているので「常設」は良くない。「企画展」だと大きい部屋の企画展と同じタイトルになる。

委員

何か考えていただくのが良いのではないかという提案である。

委員

松江の織田一磨の展覧会に行った。ホームページを見ると常設展示の一角でやっているようなものだったが、企画展的なボリュームがあり、ちゃんとしたリーフレットを作り、レクチャーもしていた。打ち出し方によってかなり反応が変わると思う。黒崎彰作品40点の展示は版画美術館でしかできないと思う。ちゃんと打ち出したら観客をうまくつかめると思う。

委員

長谷川潔展のアンケートにあったが、年間パスポートなどがあれば行きやすくなるのではないか。常設展を繋げてシリーズにするとか。

小中学校作品展をイベント的ではなく、もう少し長い期間展示することはできないか。

事務局

ぐるっとパスには加入しているが、年間パスポートはない。公立美術館でどうしたらできるか、できないとしても良い方法があるか考えていきたい。

事務局

小中学校作品展についてはおもしろい取り組みだとは思いますが、展示室のスペースの問題と、学校から作品を借りると、学校との協議、検討が必要となる。

委員

作品は個人のもの。保護者と本人が了承すれば提供してくれる。

事務局

公募にすると選別しなければいけない。全員出す案もあるが、選ぶならそのシステムをクリアにしなければならない。

委員

孫がやるものにおじいちゃんおばあちゃんは来る。ニーズは倍になる。

3. その他

(1) 仮処分申し立て事件について

○美術館自体は著作物であり、著作者は設計者であるとの判断が下りたが、町田市が計画している工事は著作者の同一性保持権を侵害せず、私的な改変にもあたらない、庭園部分については著作物にあたらないということで、12月25日付で設計者の申し立てを棄却するという東京地方裁判所の決定があったことを、事務局から口頭で説明

(2) 芹ヶ谷公園“芸術の杜”パークミュージアム進捗状況について

○12月に整備、運営を担うことに関心を持つ事業者向けに説明会を行い、32社57名が参加、今後は町田市芹ヶ谷公園“芸術の杜”パークミュージアム整備運営事業の実施方針を公表する予定であること、実施設計業務は2022年12月23日までを工期としていたが、2023年3月末までかかる見込みで、(仮称)国際工芸美術館の工事完成も送れるが、枯らし期間を調整し、開館予定は2026年3月で変更はないことを12月市議会で行政報告を行ったことを、事務局から口頭で説明

○委員からのご意見、ご質問等
なし

○閉会の宣言(会長)

—以上—